

ハ カ
ー メ
フ ラ

PETRI HALF

18×24mm判



PETRI

INSTRUCTION BOOKLET

ペトリハーフの主な性能

使用フィルム	35ミリフィルム 40枚または72枚撮り
画面サイズ	18×24 mm (ハーフサイズ)
レンズ	ペトリオリコール F2.8 28 mm (3群4枚構成) アンバーコーティング
シャッター	ペトリカーペル S B, $\frac{1}{15}$, $\frac{1}{30}$, $\frac{1}{60}$, $\frac{1}{125}$, $\frac{1}{250}$ 秒 シンクロ X 接点内蔵
焦点調節	前玉回転式、∞, S(5), G(3) 1.5, 1.2, 1, P(0.8), 0.7 m
ファインダー	逆ガリレオ採光窓式 ブライトフレーム、パララックス矯正指標付 グリーンファインダー 倍率0.5倍
フィルム巻上	1作動式トリガーレバー 余裕角28°巻上角40° 同時セルフコッキング
その他	自動復元式フィルムカウンター クランク式フィルム巻戻し、フィルムインジケーター

18×24mm 判

ペトリハーフ

■その7つの特長■



価格	¥7,600
カメラ	¥6,800
ケース	¥1,200
スナップバンド	



スーツとポケットへ……

携帯は理想的です

ラジオにトランジスターの時代が来たように、カメラにも小型軽量のコンパクト時代がやってきました。ベトリハーフは、どこでも入手しやすい35ミリフィルムを使いながら、洋服のポケットにも、女性のハンドバッグにもひそませられる小ささです。（寸法は10.7×7.6×4.7 cm、重さは385 g）しかも凸起部が少ないので、ポケットへの出し入れもスムーズに行えます。

ベトリハーフは非常に携帯が便利なので、毎日のご通勤にもご通学にも、いつでもためらわずに持って歩くことができ、偶然のチャンスをつかむことができます。それにデザインの良さ、仕上の美しさは格別です。



2

経済的、しかも
四切以上の引伸
が十分にできる
ハーフサイズ

ペトリハーフは35
ミリ判(24×36ミリ)
の半分の、ハーフ判
(18×24ミリ)です
から、20枚撮りのフ
イルムでは40枚、36
枚撮りでは72枚も撮
れます。1コマ当り
のフィルム代、現像



ハーフ判からキャビネに引伸した印画の一部

料、ベタ焼き代などすべて半額で経済的です。

しかも、適切に処理された、ハーフ判のネガは、四切判(約25×30cm)以上の引伸にも十分にたえられる能力をもっており、粒子が荒れたり、画質の悪くなるおそれがありません。更に大きく引伸したい場合は、SまたはFクラスのフィルムを使えばOKです。ネガでも反転でもカラーフィルムが自由に使え、しかも2倍の枚数を写せるのも大きな魅力です。



ハーフサイズ(原寸大)



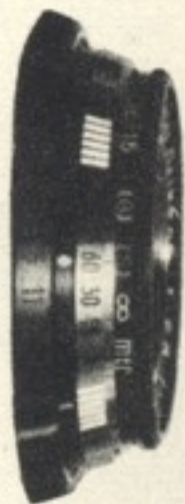
3

すばらしい描写の ペトリオリコール F 2.8 28ミリ

ペトリオリコールF2.8 28ミリは、3群4枚構成のすばらしい描写力をもったレンズです。写角は56度ですから、丁度35ミリ判のカメラでいえば40ミリ程の準広角にがい当します。このレンズは解像力が非常によく、F2.8開放でも画面の周辺までシャープな影像を結び、カラー撮影にも絶好です。

短焦点レンズなので被写界深度が極めて深く、ピントを気にする必要がありません。目測式で十分なのです。絞り(F8)、シャッター($\frac{1}{60}$)、距離(S)の赤文字に合わせれば、固定焦点カメラとして初歩の方でもお子さまでもすべてをはっきり写せます。しかも0.7メートルまでの接写を楽しめます。





4

低速度から高速度まで ペトリカーペル S

軽快なシャッターとして定評のあるペトリカーペル S は、B (バルブ) の他に $\frac{1}{5}$ 秒の低速度から $\frac{1}{250}$ 秒の高速度まで、5 段階の速度をもっていますから、どんな被写体でも写すことができます。しかもこの速度目盛は絞り目盛と同様に、倍数系列、等間隔に目盛られており、クリックストップになっていますから、露出の設定が容易に行えます。

F2.8 $\frac{1}{5}$ 秒で露出すれば、かなり暗い被写体でも明るく写すことができますし、また $\frac{1}{250}$ 秒を用いれば非常にスピードのある動体でも写し止めることが可能です。

ボデーリリースの圧力は 250 g と軽く抵抗のためのカメラぶれのおそれがありません。



$\frac{1}{250}$ 秒で写し止めた高速動体



$\frac{1}{8}$ 秒で写した夜の街頭



5

明るく見やすい ブライトフレームの グリーンファインダー

ファインダーをのぞくと、被写体が緑色に見えますが、これはグリーンフィルターを用いているからで、長時間にわたってファインダーをのぞいても眼の疲れを覚えません。このフィルターは特殊クラウンガラスを使用していますから、非常に明るく、被写体に適度なコントラストをつけるので、非常に見やすくなっています。

ファインダーの中に見える金色の明るいゴールデン・ブライトフレームは、撮影画面と同じ正しい視野を決めるもので、このフレームはのぞき方が多少狂っても、視野がズレるおそれがありません。



近接撮影とパララックス矯正

レンズとファインダーの位置に差があるため、近接する程ファインダー視野と実画面のズレ（パララックス）が大きくなるものですが、ベトリーフではこれを矯正するために、フレーム内の上部に赤色ラインの指標を設け、至近距離撮影の場合の目安としております。（上の写真参照）



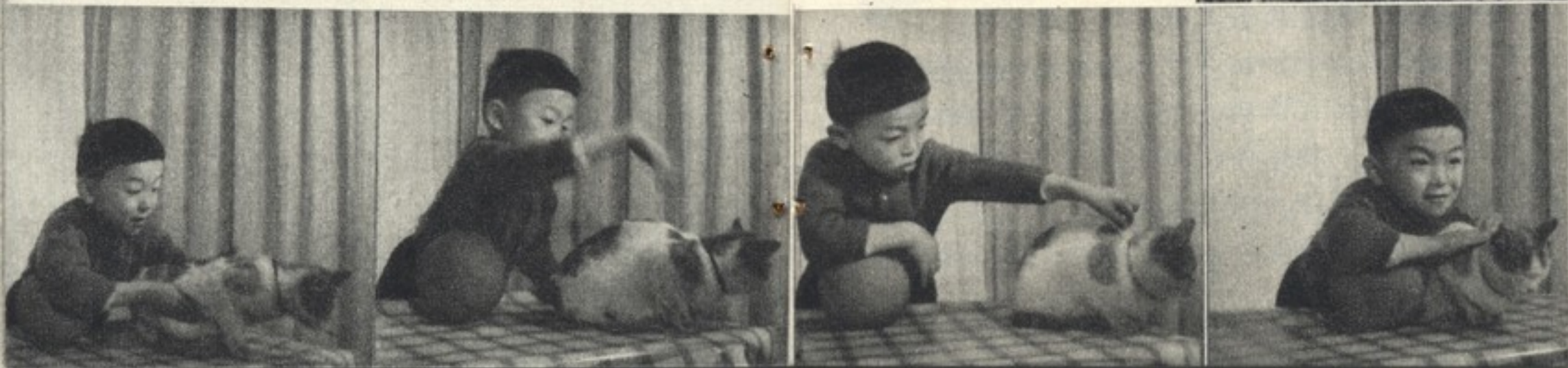
最高の速写性を誇る

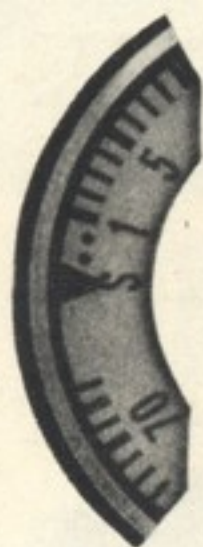
トリガーレバー

1秒間に1枚以上の連続速写ができる、と
いったら驚かれる方も多いと思いますが、こ
れはペトリハーフのトリガーレバーだけがも
つ最高の速写性です。ピストルの引金を引く
ように左手で引くだけで、フィルムが1コマ
分巻上げられ、シャッターがセットされます。

(セルフコッキング) レバーの巻上角度はわ
ずか40度(余裕角28度)で、軽くスムーズに
作動します。勿論二重露出防止です。

左手でレバーを巻上げ、右手でシャッター
を切りますから、両手を最も能率よく使うこ
とになり、上記の驚異的な速写性が生れてく
るわけです。子供の瞬
間的な表情の動きをと
らえるのも、猛烈なス
ピードで走るオートバ
イの動きを的確にとら
えるのも、このトリガ
ーレバーによれば容易
です。下の写真は連続
撮影の例です。





7

自動復元式の フィルムカウンター

ペトリハーフのフィルムカウンター（枚数計）は、裏蓋を開けると自動的に-3の位置つまりS（スタート）の印に復帰します。そしてフィルムを装填するときも、フィルムカウンターに何ら手をふれることなく、自動的にNo. 1に合わせることができます。

第1枚目のシャッターを切ってフィルムを巻上げますと、カウンターも1目盛進み、いつも正しい撮影枚数を示してくれます。

手動式のものでは、フィルム装填の際に、いちいちNo. 1に指で合わせ直さなければなりませんし、撮影中に指がふれて枚数が分からなくなることがありますが、このカメラに関しては、そうしたおそれが全くありません。



軽快なボデーリリース

カメラが軽量なのでボデーリリースの圧力もそれに合わせて 250g の軽さですから、カメラおれのおそれがなく、シャッターチャンスをつかすこともありません。



シンクロX接点内蔵

シャッターに内蔵されているシンクロ装置はX接点ですから、シャッターの全開と同時に電流が流れます。シンクロターミナルは最も一般的なJISのB型です。

その他の の特長



迅速な巻戻しクランク

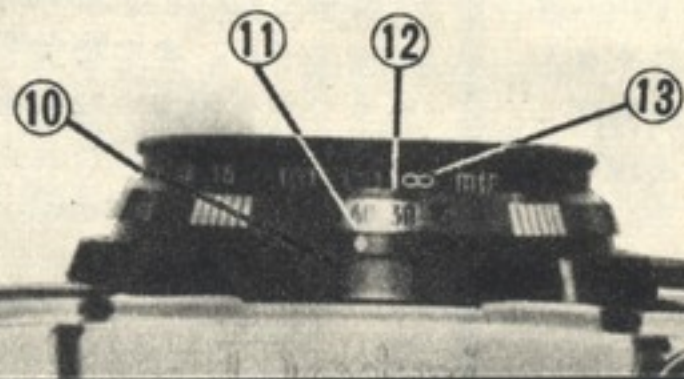
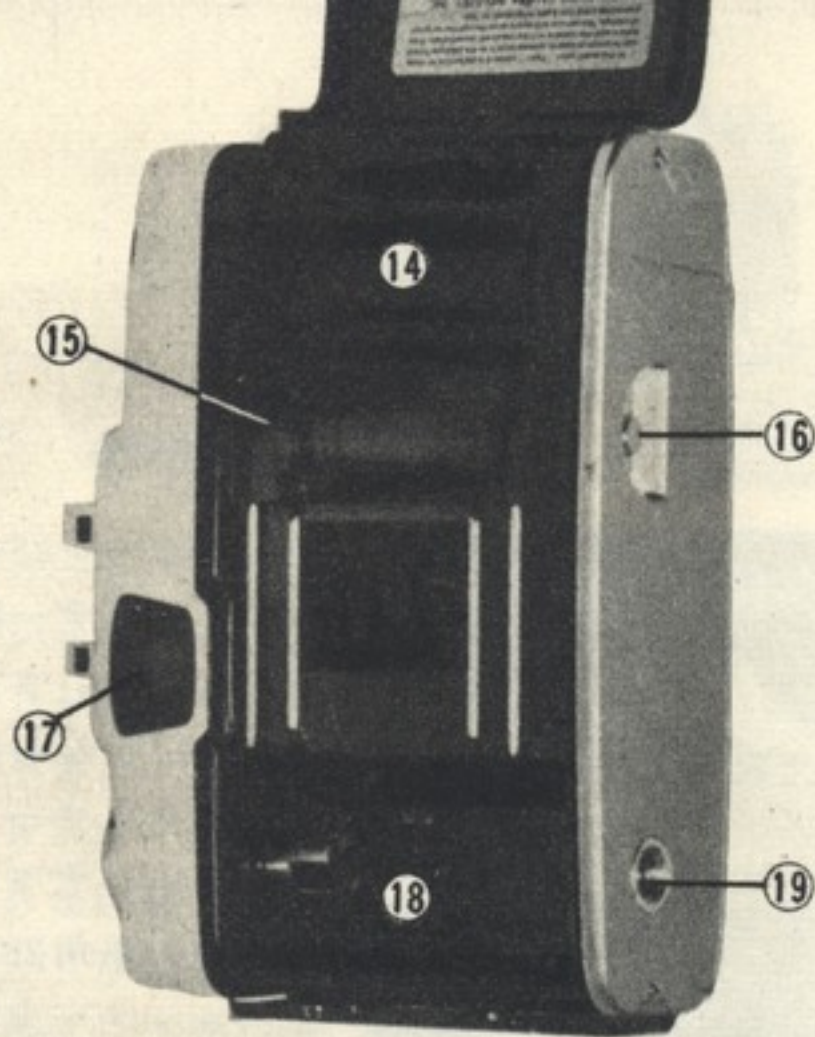
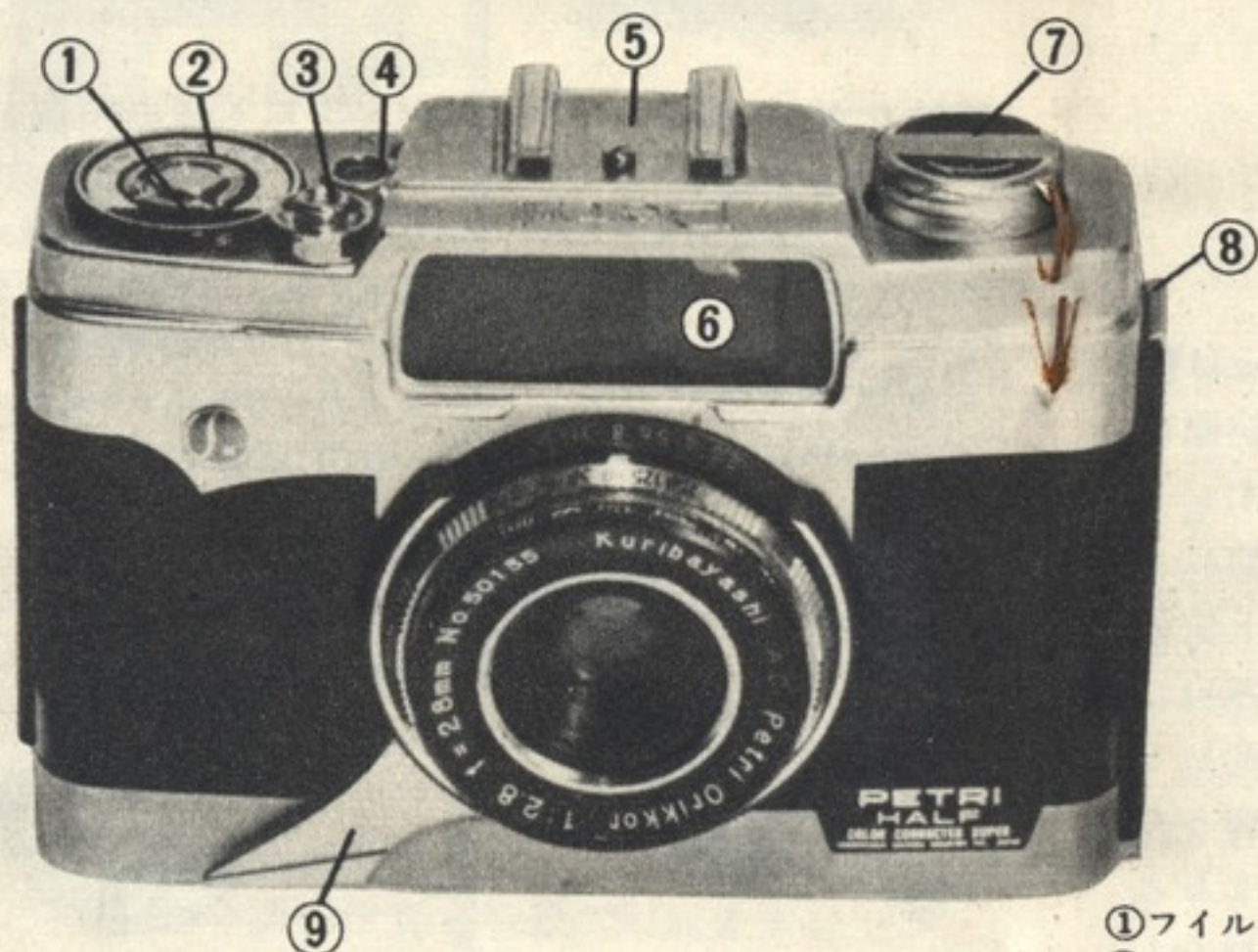
撮影の終わったフィルムは巻戻さなければなりません。折りたたみ式の巻戻しクランクは極めて迅速に操作できます。



フィルムインジケーター

装填中のフィルムが黑白かカラーか、また感光度はいくつかを間違いなく承知しておくために、これを合わせておくと便利です。

ペトリハーフ・各部の名称



- | | |
|-------------|---------------------|
| ①フィルムカウンター | ⑪絞り・シャッター指標 |
| ②フィルムインジケータ | ⑫シャッター速度目盛 |
| ③ボデーリリース | ⑬距離目盛 |
| ④シンクローミナル | ⑭巻取りスプール |
| ⑤アクセサリクリップ | ⑮スプロケット |
| ⑥ファインダー | ⑯リターンボタン |
| ⑦巻戻しクラック | ⑰アイピース |
| ⑧裏蓋開閉レバー | ⑱パトローネボックス |
| ⑨トリガーレバー | ⑲三脚、スナップバンド用
ねじ穴 |
| ⑩絞り目盛 | |

扱い方

トリガーレバーの操作



①トリガーレバーは携帯時にはボデー前面に収められています。



②撮影にかかると、レバーをスタート位置まで引出して下さい。

(余裕引出角28度)



③シャッターを切ったら、レバーを止まるところまで引いてはなします。(巻上角40度)

1作動でフィルムが1コマ分巻上げられ、同時にシャッターがセットされます。



■トリガーレバーは完全に止まるまで引かないと、シャッターが作動しません。誤って途中までしか引かなかった場合は、改めて引き直して下さい。

■トリガーレバーを操作した後は、シャッターを切らない限り、再び操作することはできません。(空送り防止) また、シャッターを切った後は、このレバーを操作しない限り再びシャッターを切ることはできません。(二重露出防止)

■フィルムを巻上げた後、シャッター速度を変えてもさしつかえありません。ただし、シャッターをセットしたまま、長時間放置することは、シャッターのためによくありませんから、なるべく撮影の直前に操作して下さい。

フィルムに入れ方

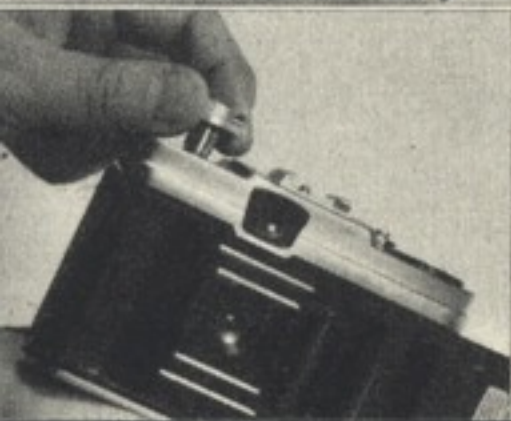
ベトリハーフはパトローネ入りの35ミリフィルムを使用します。日中装填用ならそのまま明るい所で装填できますが、暗室装填用のフィルムは、真暗な場所（暗室）で空のパトローネに巻き直して入れなければなりません。

フィルムを直射日光下に入れるのはさげましょう。できるだけ日陰をえらんで下さい。次はフィルムを入れる順序です。



1

裏蓋開閉レバーに爪をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。



2

巻戻しクランクをつまんで引出しパトローネをパトローネボックスに納めます。

3

フィルムの先端を巻取りスプールの溝に差しこみ、パーフォレーション（爪孔）を溝の凸起にひっかけます。



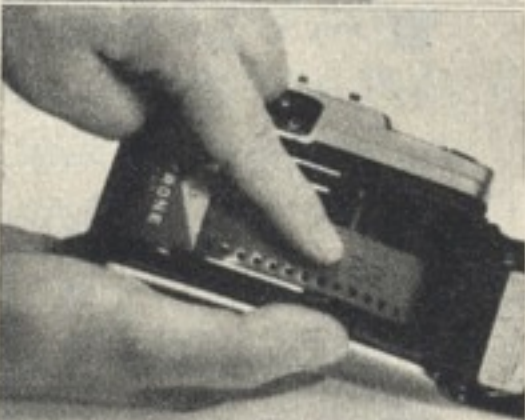
4

スプールのつばに指をかけて1回転程回します。



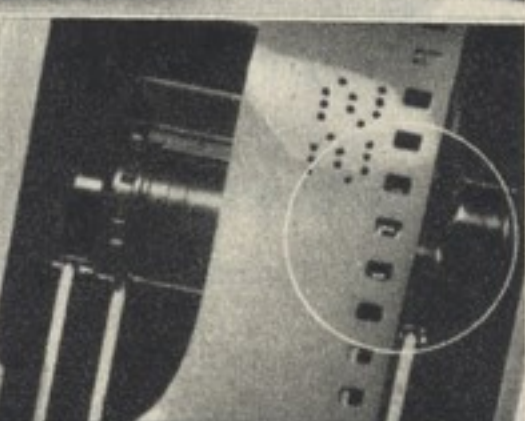
5

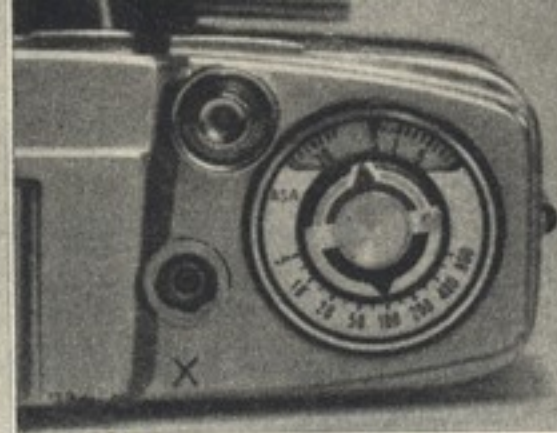
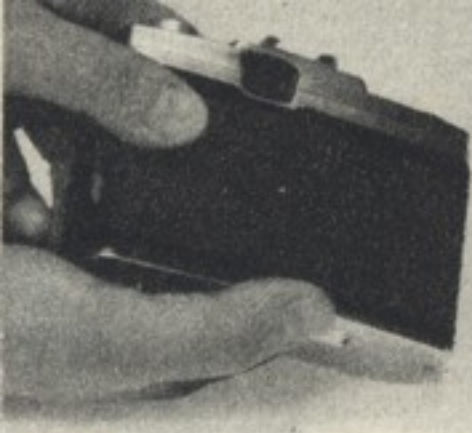
フィルムが巻取りスプールのまっすぐ巻きこまれタルミのないように確認して下さい。



6

このときパーフォレーションとスプロケットのギヤが完全にかみ合っていないと、フィルムが破れることがあります。





7

裏蓋を押せばパチンと自動的に閉まります。

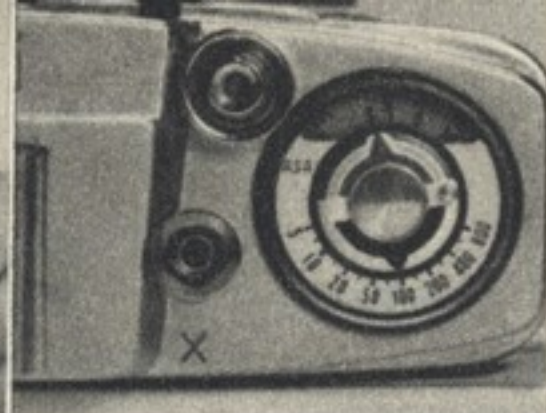
8

このときフィルムカウンターはSの位置に合っています。

■フィルムの先端を巻取りスプールに差しこむとき、スプールのつばを回転させて、溝の位置を差しこみやすい位置に直して下さい。

■パトローネを納めて、巻戻しクランクを押しこんでも、うまく入らないときは、クランクを左右に回しながら押せば入ります。

■パーフォレーションがスプロケットのギヤにうまくかみ合っていないと、パーフォレーションが切れてフィルムが巻けなくなることがありますから、必ず確認して下さい。これはフィルムの装填中最も大切な要点です。



9

レバーを巻上げ、シャッターを切る操作を2回繰り返します。

10

3回目の巻上げでフィルムカウンターはNo. 1に合います。

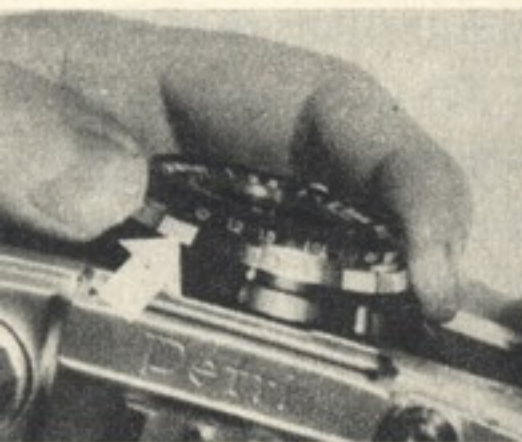
■フィルムが正しく巻上げられているときは巻戻しクランクが矢印と逆の方向に回りますから、この点も注意して下さい。ただし、パトローネの中でフィルムがゆるんでいるときは回りませんから、巻戻しクランクを矢印の方向に回してフィルムをしめた後、確認して下さい。もしそれでも巻戻しクランクが回らなければ、フィルムが巻上げられていないと判断されます。

■10の操作（3回目の巻上げ）は撮影直前に行うようにして下さい。

撮影の順序

フィルムを装填したらいよいよ撮影ですが実際にシャッターを切るまでには、絞り目盛とシャッター速度目盛を合わせて露出をきめ更に被写体までの距離に距離目盛を合わせなければなりません。この3つの目盛の合わせ方が、撮影成功の重要なカギとなるのです。

鏡胴周囲の3つのリング上には、それぞれ絞り、シャッター速度、距離の各目盛が刻まれていて、各リングを指でつまんで回転する



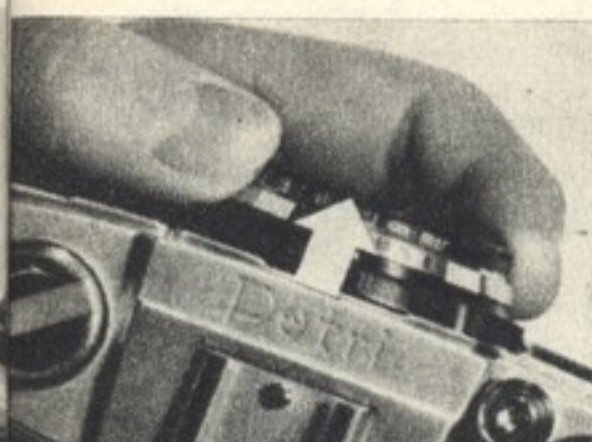
1

まずシャッター速度のリングを回して希望の速度を指標に合わせます。



2

次に絞り目盛のリングを回して、希望する絞りを指標に合わせます。



3

最後に被写体までの距離に合わせて、距離目盛のリングを回します。

ことによって、各目盛を調節するようになっていきます。

①シャッター速度目盛の数字は、1秒の何分の1であるかを示すもので、15は $\frac{1}{15}$ 秒、250は $\frac{1}{250}$ 秒を表わしています。Bはバルブといって、シャッターを押している間中羽根が開いていますから、長時間露出に使われます。シャッター速度目盛の中間は使えません。

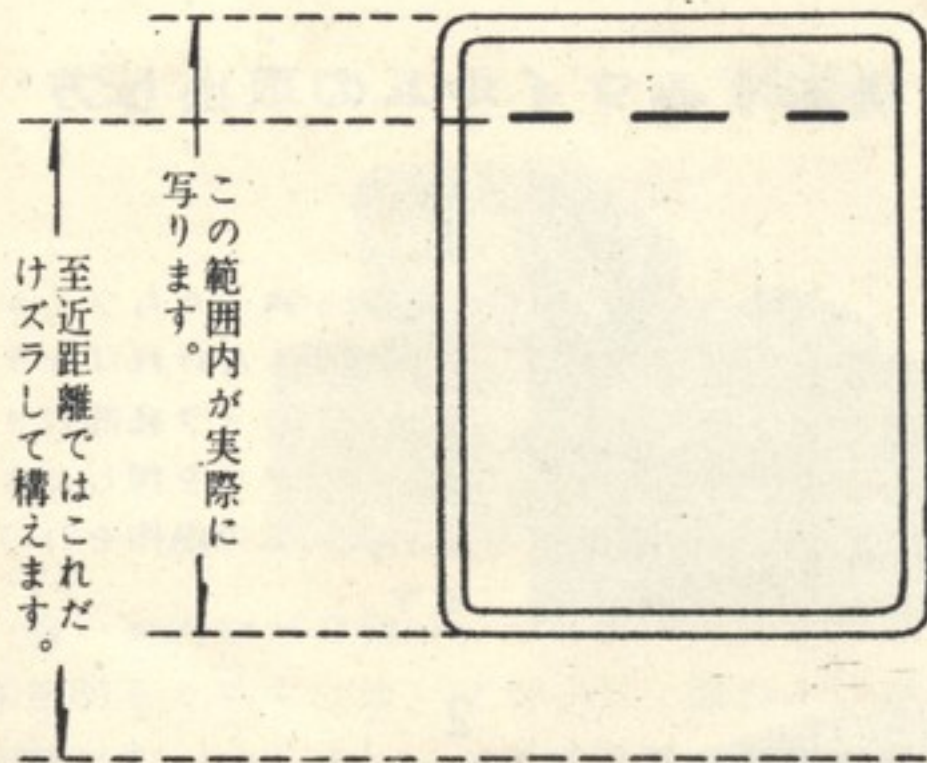
②絞り目盛は1目盛絞るごとに光量が半減しますから、シャッター速度と合わせて露出をきめます。目盛の中間を使えます。

③距離目盛の数字はメートル単位です。P (0.8m) はポートレート(半身人物)用、G (3m) はグループ(集合人物)用、S (5m) はスナップ用、またそれ以上の遠景には∞(無限遠)に合わせます。

構え方・ファインダーののぞき方

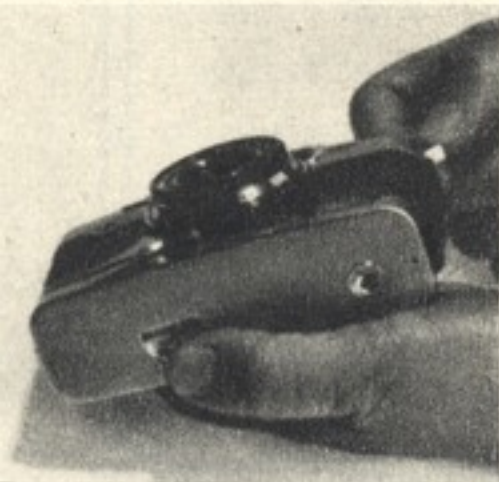
安定した構え方といえば、カメラを両手でしっかり持ち、カメラの背を額とか鼻にぴったりつけて、シャッターを切る瞬間に呼吸をとめるのがコツです。また両ひじは軽く体につけ、立姿では両足を開いて体全体を安定させます。下の写真を参照して下さい。

ファインダーは眼鏡をかけたまま、のぞいても構いません。金色のフレーム内に構図をきめますが、至近距離では右図のように赤マークまでのぞき方をズラして下さい。



■ベトリーフは35ミリ判のハーフサイズ(半裁)ですから、カメラが横位置のときは画面が縦、カメラが縦位置のときは画面が横になります。連続速写のときはトリガーレバーに指をかけたままねらって下さい。

撮影済みフィルムの取出し方



1

撮影が終わったらフィルムを巻戻さなければなりません。カメラ底部のリターンボタンを押したまま、次の2の操作を行います。



2

巻戻しクランクを起して矢印の方向に回して下さい。巻き終ると手ごたえが軽くなるので分ります。



3

フィルムをバトローネに巻戻した後、裏蓋を開け、巻戻しクランクを引出して、フィルムを取出します。

シンクロフラッシュ撮影



暗い室内などで速いシャッターを使って全体を明るく写すには、フラッシュ撮影が一番手軽です。ペトリハーフには小型強力な、かわいい専用フラッシュガンが用意されていますから是非ご利用下さい。

フラッシュガンをカメラのアクセサリクリップに取付け、コードをボデー上部のX接点のターミナルにさしこんで使います。

ストロボを使うときは全速度に同調します。F級の閃光電球を使うときは $\frac{1}{60}$ 秒以下、M級の閃光電球では $\frac{1}{30}$ 秒以下に同調します。

シンクロ撮影の露出は、閃光電球の包装ケースに明示されています。

絞りと被写界深度

絞りはフィルムに達する光の量を調節する働きのあることを前に述べましたが、この他小絞りにする程被写界深度が深くなるという性質があります。被写界深度とは、ある1点にピントを合わせたとき、その前後に生じる鮮明に写る範囲のことで、これを利用して作画的な効果を出すこともできます。

被写界深度は絞りの大きさの他に、被写体までの距離が遠い程、また焦点距離が短いレンズ程深くなる性質があります。なお、被写界深度は前方に浅く後方に深いものです。

ペトリハーフのレンズの焦点距離は28ミリで極めて短いので、目測式でもピント外れのおそれがなく、スナップ向きのカメラといえます。

赤マークによるスナップ撮影

各目盛の赤マーク（F 8、 $\frac{1}{60}$ 秒、S < 5メートル）に合わせておけば、2.28メートル以上のものはすべて鮮明に写りますから、ス

ナップのようなとっさの撮影には極めて好都合です。露出もSS級フィルムを使えば、四季を通じて大体適正となります。この方法によれば、初心者の方でも、小さなお子さまでも、始めから間違いなく写せます。（上の写真参照）・

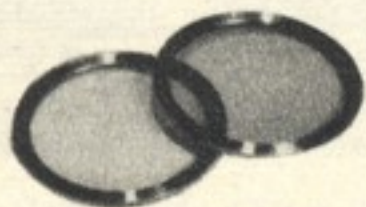


ペトリハーフ被写界深度表

F \ mtr	2.8	4	5.6	8	11	16
0.7	0.66~ 0.74	0.64~ 0.76	0.62~ 0.78	0.60~ 0.83	0.57~ 0.89	0.53~ 1.02
P (0.8)	0.75~ 0.85	0.73~ 0.88	0.70~ 0.91	0.67~ 0.98	0.63~ 1.06	0.58~ 1.26
1.0	0.92~ 1.08	0.90~ 1.13	0.86~ 1.19	0.81~ 1.30	0.75~ 1.46	0.68~ 1.86
1.2	1.09~ 1.32	1.05~ 1.39	1.00~ 1.49	0.93~ 1.66	0.87~ 1.94	0.77~ 2.71
1.5	1.33~ 1.70	1.27~ 1.81	1.20~ 1.98	1.11~ 2.30	1.01~ 2.89	0.88~ 5.01
G (3)	2.40~ 3.98	2.21~ 4.64	2.00~ 5.94	1.76~ 10.2	1.52~ ∞	1.24~ ∞
S (5)	3.53~ 8.53	3.14~ 12.2	2.73~ 29.1	2.28~ ∞	1.90~ ∞	1.48~ ∞
∞	12.0~ ∞	8.40~ ∞	6.00~ ∞	4.19~ ∞	3.05~ ∞	2.09~ ∞

ペトリハーフのアクセサリ

フィルター



レンズフードは鏡胴が深いので不要です。

UV、Y1、Y2、Y A3、R1、PO1の他カラー用(W4、C4、C8、C12)があります。22.5mmのねじ込式です。



フラッシュガン

超小型軽量のスマートなBC型フラッシュガンです。閃光電球はマツダ2Mを使用します。

専用電気露出計 アクセサリークリップに(発売予定) 取付ける小型露出計です。

AUXレンズ(望遠) レンズの前面に取付けて(発売予定) 望遠効果が得られます。

四季の露出表

晴天・太陽光下・順光線

季節	被写体			
	海岸・山岳 雪景	広い風景 明るい近景	戸外人物 スナップ	人物近写 動・植物
春(9時-3時)	F 16	F 11	F 8	F 4
夏(9時-4時)	F 16*	F 16	F 11	F 5.6
秋(9時-3時)	F 16	F 11	F 8	F 4
冬(10時-3時)	F 11	F 8	F 5.6	F 2.8

*印はY2フィルターをかけた場合です。

シャッター ASA50のS級フィルム... $\frac{1}{125}$ 秒
速度 ASA100のSS級フィルム... $\frac{1}{250}$ 秒
(朝夕は2倍、日陰は4~8倍、薄曇は2倍、本曇は4倍、フィルター使用時は倍数をかけて下さい。)

カラーフィルムの露出表

晴天・太陽光下・順光線

被写体	シャッター 速度	感光度ASA 50 $\frac{1}{125}$ 秒	感光度ASA 10 $\frac{1}{60}$ 秒
	明るい被写体		F 16
普通の被写体		F 11	F 5.6
暗い被写体		F 8	F 4

(この表は日の出2時間後から日没2時間前までに適用します。春、秋が標準ですから、夏期は半絞しほり、冬期は半絞開いて下さい。薄日は2倍、薄曇は4倍。フィルター使用時はその倍数をかけて下さい。)

栗林写真工業株式会社

営業所

東京都千代田区神田小川町2-2

電話(291)4986~0(国内関係)

工場

東京都足立区梅島町1

電話(888)1111~4(輸出関係)

サービスステーション

東京都千代田区神田小川町2-2

電話(291)4986~0(お問合せ先)

